

令和7年度 北海道網走南ヶ丘高等学校 全日制課程 学校評価票

1 学校教育目標

- 1 国家及び社会の有為な形成者として義務と責任を重んじ、己を磨く態度をはぐくむとともに、自主自立の精神を養う。
- 2 豊かな心と健やかな体をはぐくむとともに、奉仕と勤労を尊び行動・実践する力を養う。
- 3 探究心と向上心を培い、課題解決に必要な学力をはぐくむとともに、明澄で端正な生き方を希求する態度を養う。

2 スクール・ミッション

地域から期待されているオホーツク東部の中心校として、広域から入学する多様な生徒の豊かな心と健やかな体をはぐくみ、社会に貢献できる指導的役割を担う人間を育成します。

3 スクール・ポリシー

(グラデュエーション・ポリシー：卒業の認定に関する方針)  
 ・「基本的生活習慣」の確立 = 明澄端正・奉仕勤労  
 ・「自ら学ぶ態度」の確立 = 自主自立・明澄端正  
 ・「家庭学習習慣」の確立 = 奉仕勤労・自主自立  
 (カリキュラム・ポリシー：教育課程編成・実施に関する方針)  
 生徒一人ひとりの進路希望の実現や学力を伸ばすため、卒業後の進路や適性を踏まえた教科・科目選択を行い、自分に合った時間割を生徒自ら作成できるよう教育課程を編成し、確かな学力の向上を目指した授業を実施する。  
 (アドミッション・ポリシー：入学者の受け入れに関する方針)  
 ・大学進学等、将来の目標をしっかりと持ち、自ら学ぼうとする意欲の高い生徒  
 ・生徒会活動や学校行事、部活動等において、リーダー性を発揮し、主体的に取り組む生徒

【評価】 そう思う 4    どちらかというと思う 3    どちらかと言えばそう思わない 2    思わない 1

領域	No.	評価の観点	生徒	保護者	教職員	成果と課題	改善の方策	学校関係者評価
学校運営	1	学校教育目標は家庭や地域の願いに応えたものになっていると思う。 前年対比	3.4 0.0	3.1 -0.2	3.5 -0.1	成果：学校教育目標への一定の理解や、教育課程が生徒の進路実現に役立っている点について高い評価を維持している。 課題：保護者の評価が低下傾向にあり、学校の取組が十分に伝わっていないことや、家庭・地域との連携不足が課題である	教育目標や実践内容を分かりやすく発信し、家庭・地域との連携を深める。 クラウドサービス（Classi等）の有効活用により、保護者への情報発信を工夫し、双方向の連携を強化する	3.8
	2	授業の配置などの教育課程は生徒の進路実現に応えたものになっていると思う。 前年対比	3.4 0.0	3.1 -0.1	3.4 0.1			3.4
	3	本校は、いじめのない学校だと思う。 前年対比	3.3 -0.3	2.9 -0.2	3.4 0.0			3.6
	4	学校は、教育活動などを積極的に情報発信していると思う。 前年対比	3.3 0.1	3.0 -0.2	3.5 0.1			3.8
	5	ホームルーム担任や部活動顧問、関係教職員は、保護者と連携が取りやすい環境にあると思う。 前年対比	3.4 0.1	2.9 -0.1	3.3 -0.1			3.4
	6	教職員の言葉づかいや態度、電話の対応などは、適切に行われていると感じる。 前年対比	3.4 0.1	3.3 -0.2	3.5 0.1			3.6
	7	あなたは、学校から配付されるプリントなどを、保護者に必ず見せている。（指導している。） 前年対比	3.3 0.3	3.3 -0.2	3.7 0.0			3.4
	8	本校に入学して良かったと思う（指導をしている）。 前年対比	3.3 -0.1	3.2 -0.3	3.5 0.1			3.8
学校関係者からの意見		改善の方策にあるとおり、双方向による連携の一層の強化を期待する。 大学関係者や地域の代表者等の声を直接聴くことができる場も積極的に設定を願う。						

領域	No.	評価の観点	生徒	保護者	教職員	成果と課題	改善の方策	学校関係者評価
学習指導	9	全ての授業において、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図られていると思う。 前年対比	3.4 0.0	3.0 -0.2	3.1 -0.1	成果：授業とともに、授業評価アンケートの実施やオンライン授業による学習不安の解消、昼休み講習の実施により、学力向上に向けて一定の成果が見られる。 課題：予習・復習などの家庭学習習慣の定着が不十分である。授業評価の結果に対する組織的な改善検討や、オンライン受講生徒への対面指導が難しい点が課題である。	教務部で改善策を審議し、全体での課題意識の共有と具体的な改善提示を行う。家庭学習習慣の確立に向けた指導を強化し、オンライン授業実施後の指導体制や役割分担を明確化する。	3.4
	10	予習・復習や学習課題など、家庭学習に取り組んでいる。 前年対比	2.9 0.1	2.7 -0.2	2.6 0.2			3.2
	11	今年度になって、学力は向上したと感じる。 前年対比	2.9 0.1	2.6 -0.2	2.8 0.2			3.2
	12	全ての授業において、教員は適切な態度で授業を行っていると思う。 前年対比	3.3 0.0	2.9 -0.2	3.3 0.2			3.6
	13	本校の学習指導は、適切に行われていると感じる。 前年対比	3.4 0.0	3.0 -0.1	3.4 0.3			3.8
学校関係者からの意見		・近年の課題であり、新たな取り組みの工夫が必要である。 ・家庭学習習慣の確立および定着を図る方策として、多角的な視点から考察し、自らの見解を論述させるような「正解が一つに定まらない課題」の設定は有効な手法の一つである。その際、生徒自身の関心や思考を反映できる課題内容を検討することも肝要である。						

領域	No.	評価の観点	生徒	保護者	教職員	成果と課題	改善の方策	学校関係者評価
生徒指導	14	教職員は、積極的に声をかけたり、悩みを聴いたりするなど、生徒理解に努めている。	3.3	2.9	3.4	成果：日常的な声掛けや面談、組織的な指導体制が定着しており、生徒・教職員間の評価は概ね安定している。 課題：いじめ防止やマナー指導に関する保護者評価が低下しており、学校側の意図や取組内容が十分に共有されていない。	指導の方針やねらいを通信や各種保護者説明会で分かりやすく発信し、保護者との共通理解を図る。指導理由を丁寧に説明する機会や振り返りの時間を充実させ、生徒の声を丁寧に把握する。	3.8
		前年対比	0.1	-0.2	-0.1			0.0
	15	学校は、挨拶、服装、頭髪など、社会のルールやマナーなどについて適切に指導していると思う。	3.3	3.0	3.1			3.2
		前年対比	0.0	-0.2	0.1			-0.3
	16	あなたは、学校の生徒指導について理解している。	3.4	2.9	3.5			3.8
		前年対比	0.0	-0.1	0.1			0.3
17	学校は、教育相談や面談週間の実施などによって、生徒の悩みや不安の解消に努めていると思う。	3.3	2.9	3.4	3.4			
	前年対比	0.0	-0.2	-0.1	-0.1			
18	本校の生徒指導は、適切に行われていると感じる。	3.3	3	3.5	3.8			
	前年対比	-0.1	-0.1	0.2	0.0			
学校関係者からの意見		<p>・生徒が抱える悩みは複雑化・多様化の傾向にあり、多忙な業務環境下においても、生徒の微細な変化を捉える姿勢が重要である。</p> <p>・登下校時や授業前後、放課後等の場面において、各教職員が把握した情報は、組織的に共有し迅速な指導体制を構築すること。また、生徒会による主体的な活動を指導の一環として組み入れることで、生徒自身の課題解決能力が向上し、より効果的な教育活動の展開が期待できる。</p>						

領域	No.	評価の観点	生徒	保護者	教職員	成果と課題	改善の方策	学校関係者評価
進路指導	19	学校は、進路実現に向けて、生徒が主体的に取り組む態度を育成していると思う。	3.4	3.0	3.5	成果：小論文指導の全校体制化や、模試分析に基づく面談、進路だよりによる情報提供が成果を上げている。 課題：保護者への熱量や情報の伝達が不十分との指摘があり、大学進学以外の多様な進路（専門学校・就職）へのきめ細かな対応が求められている。	多様な進路に応じた情報を適切なタイミングで提供し、継続的な個人面談をとおして生徒の進路意識を高める。HR担任への面談支援を行い、学びの多い面談機会を確保する。	3.8
		前年対比	0.0	-0.2	0.0			0.3
	20	学校は、模試などへの参加を促し、その結果を分析して進路指導に生かしていると思う。	3.4	3.1	3.4			3.6
		前年対比	-0.1	-0.1	0.0			0.1
	21	学校は、生徒の進路希望に応じたきめ細やかな指導をしていると思う。	3.4	2.9	3.5			3.4
		前年対比	0.1	-0.2	0.0			-0.1
22	学校は、進路について必要な情報を提供していると思う。	3.5	3.0	3.7	3.4			
	前年対比	0.0	-0.2	0.1	-0.1			
23	本校の進路指導は、適切に行われていると感じる。	3.4	3.0	3.5	3.6			
	前年対比	0.0	-0.2	-0.1	0.1			
学校関係者からの意見		<p>・外部機関や専門家による情報提供、および進学・就職説明会を定期的かつ機動的に実施し、生徒個々の進路意識の明確化を図る取り組みを拡充すること。特に、難関大学等への挑戦を促す機会を積極的に創出し、高い志を育む指導の充実が求められる。</p>						

領域	No.	評価の観点	生徒	保護者	教職員	成果と課題	改善の方策	学校関係者評価
健康・安全指導	24	学校は、教科や学校行事、部活動などで、心身の健康と安全について適切に指導していると思う。	3.4	3.1	3.6	成果：心身の健康・安全に関する指導や、体調不良・怪我への対応体制が教職員間で定着しており、高く評価されている。 課題：基本的な生活習慣の定着や健康の維持・増進に対する意識付けに工夫が必要である。特にスマートフォン・SNS利用に関する家庭との連携が課題である。	保健だより等の通信を通じて指導内容を継続的に発信し、家庭と連携した取り組みを強化する。生徒・保護者双方を対象とした啓発を行い、情報モラルに関する理解を深める。	4.0
		前年対比	-0.1	-0.2	0.0			0.2
	25	学校は、生徒が体調不良や怪我などをした場合、適切に対応している	3.5	3.3	3.8			4.0
		前年対比	-0.1	-0.1	-0.1			0.0
	26	あなたは、睡眠、食事、時間を守るなど、規則正しい生活習慣が身についている。	3.2	3	3.5			3.2
		前年対比	-0.1	-0.1	0.0			-0.3
27	学校は、スマートフォンやインターネット、SNS等の使い方について適切に指導していると思う。	3.4	3.0	3.3	3.6			
	前年対比	0.0	-0.2	0.1	0.1			
28	本校の健康・安全指導は、適切に行われていると感じる。	3.5	3.1	3.7	4.0			
	前年対比	-0.1	-0.1	0.0	0.0			
学校関係者からの意見		<p>・規則正しい生活習慣の確立をはじめ、生徒が自主自立の精神に基づき主体的に行動できるよう、指導の充実が求められる。</p>						